

イベント情報

★ 2018年12月7日(金) 中区山下公園・石のステージ前で

「障害福祉の未来を考える集い」を開催いたしました。



今回は雨天順延のため7日の開催になりました。そのため参加者の人数は例年の約半分に減りましたが、横浜市内約50カ所の作業所・活動ホーム・グループホームから、当事者・家族・職員ら約600名が集まり、青空の下「障害者が安心できる街はだれもが暮らしやすい町」の横断幕を掲げ、盛況のうちに行われました。

今年の標語（のぼり旗）

- ◇全員主役！ 働く喜び分かち合おう
- ◇お互いを認め合うことから始めよう
- ◇明るく地域に根付いたグループホーム
- ◇慌てずに自分のペースで一歩ずつ
- ◇「やまゆり」のいたみをわすれませんか



第1部 初めに主催者代表赤川氏（GH 連会長）、来賓の横浜市健康福祉局障害福祉部、障害者支援センター、守る会連盟らからの挨拶や激励があり、オリジナル缶バッジの優秀デザイン賞の発表と続きました。

缶バッジは被災地障害者支援計画（TEAM3）の一環として、被災地の作業所へ缶バッジを注文し、当日に参加者や市民に配布、多数の応募の中から採用となった優秀デザイン賞の発表、感謝状の贈呈がありました。

当事者発表では、作業所から旭区のみこみこカンパニー、活動ホームから港北区の障害者地域活動ホームしもだ、グループホームから中区のふれあい生活の家による発表があり、仕事や生活の様子、願いや将来の夢、グループホームの充実などを訴えました。

その後「障害者が安心して通え活動できる場と安心して生活できる場をもっと充実させていくように努めること」を宣言した集会宣言を参加者を代表して NPO 法人なかだのメンバーが読み上げ、当事者5名が横浜市への手紙を健康福祉局障害福祉担当職員に気持ちを込めて手渡しました。



第2部 ステージイベントでは、泉区おべんとうばこのメンバーによるダンスパフォーマンスやバイオリン演奏、シンガーソングライター佐藤潤さんのコンサートで盛り上がりました。

